耕うん機

F410•510

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道でのトレーラー走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証しです。具体的には、世界トップレベルの環境技術を投入した汎用製品に表示しています。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してサイド　クラッチを使用しないで、ハンドル操作で行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン　スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪(ロータ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

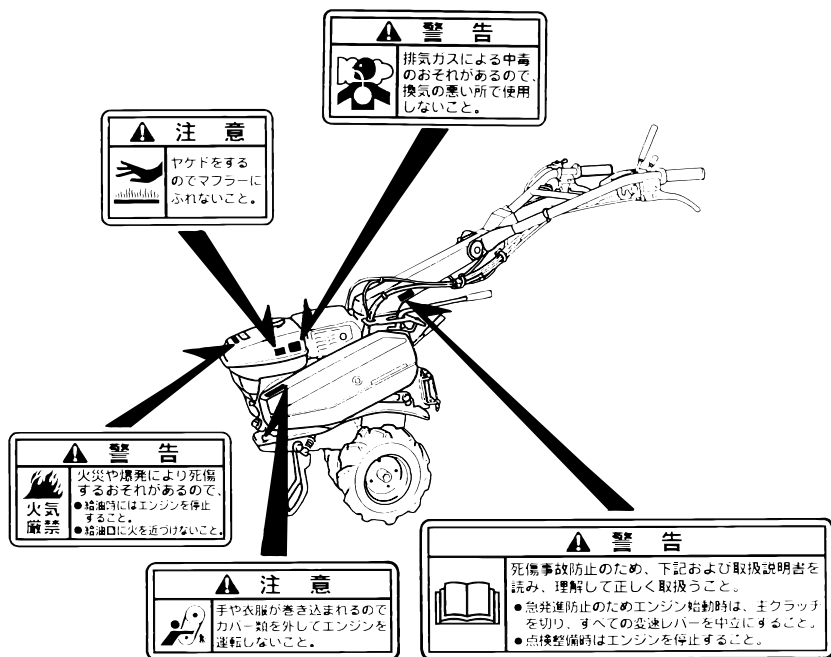
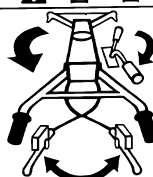
- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディ　カバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

警告

●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
  - ・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。（目安として荷台の高さの４倍以上の長さ）
  - ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - ・車軸に耕うん作業機を装着しているときは、タイヤに付け替えてください。
  - ・ロータリ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  - ・積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
    アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチ　レバーを切ったり、サイド　クラッチを操作したりしないでください。
  - ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れ、主クラッチを“入”の状態にしてください。
  - ・燃料コックは“閉”にして運搬してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

警　告
●回転中のPTO軸にふれるとケガをすることがあるので、近づかないこと。
●PTO軸を使用しない時は必ずカバーを付けること。
警　告
死傷事故防止のため、ハンドルを180°回転した場合は、
●サイドクラッチを左右つけ替えること。
●チェンジレバーを反転させること。
危　険
回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。
警　告
後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると、死傷するおそれがあるので、
●後方に人や障害物がないことを確認すること。
●車速を最低にしてエンジン回転数を下げること。
●ハンドルをしっかりささえること。
●クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にすること。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

銘板

※ フレーム号機および銘板の表示位置は
12〜15頁をご覧ください。
(参考:左の銘板はF410-Kタイプの物です)

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

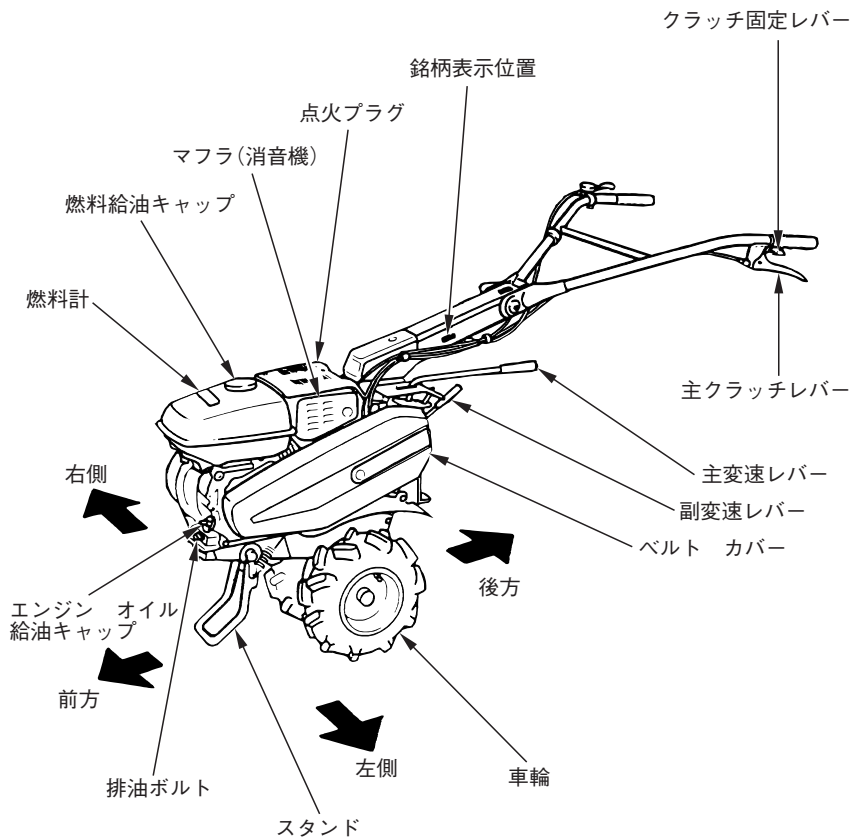
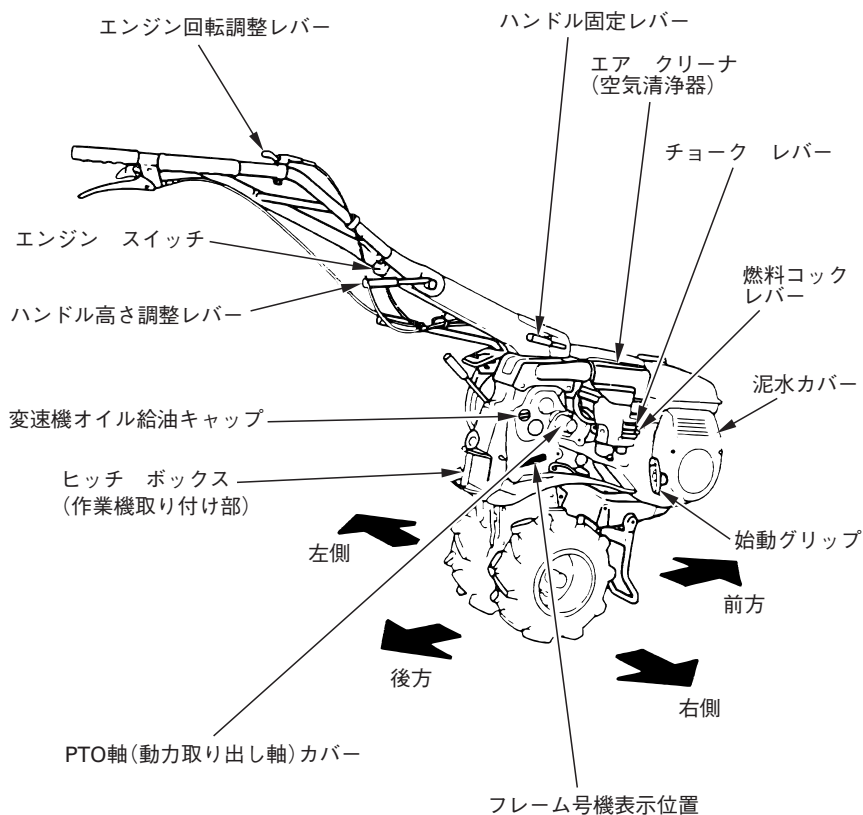
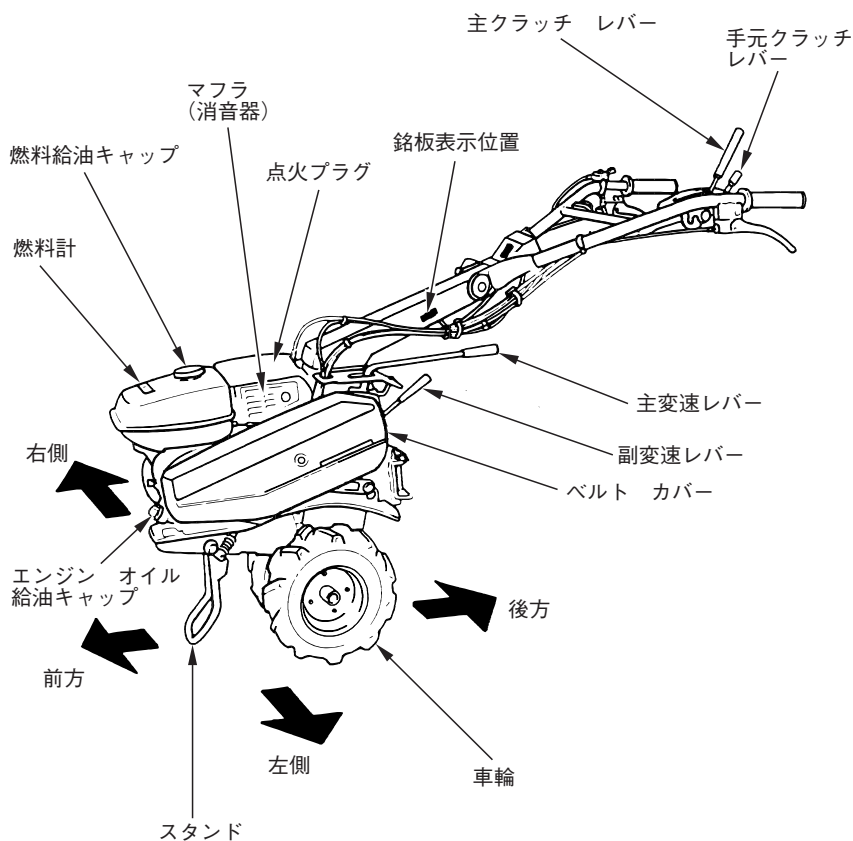
認定番号
安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
ホンダF410	802012
ホンダF410L	802013
ホンダF510	802014
ホンダF510L	802015
ホンダF510B	802018
ホンダF510H	21002

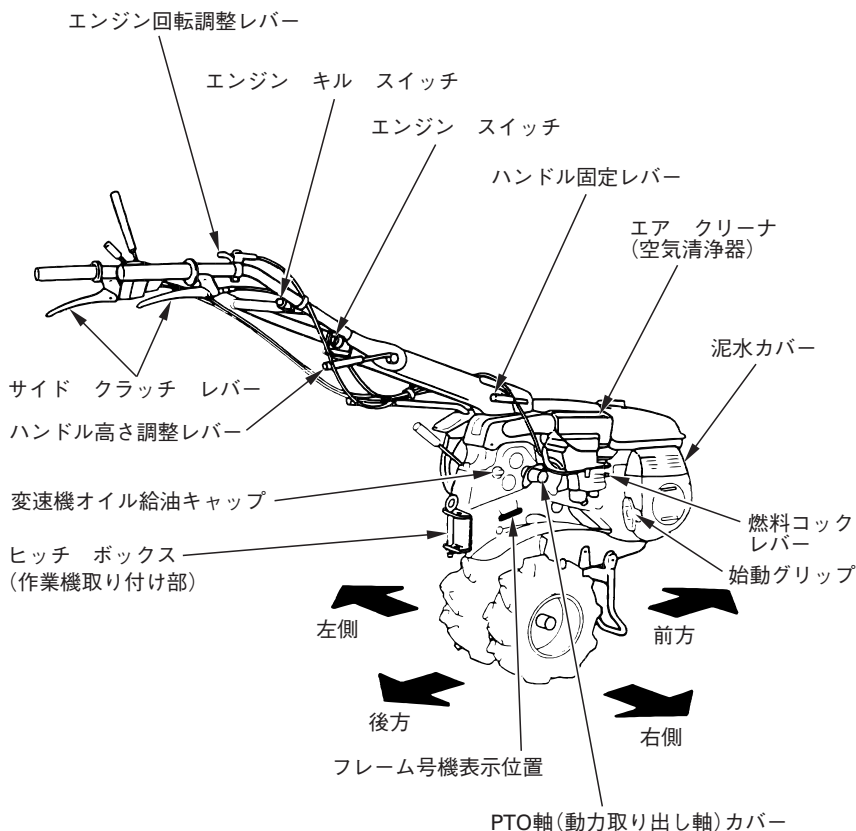
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

（F410K, F510K）

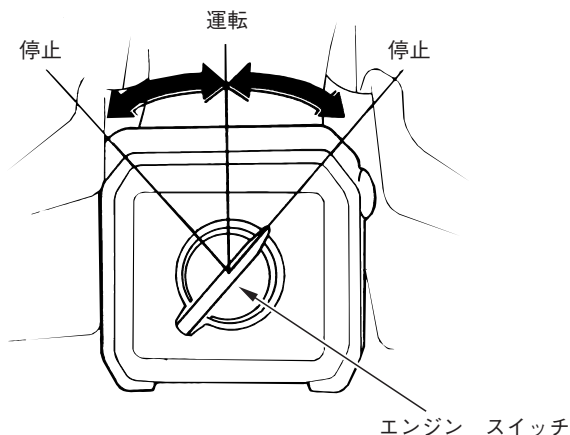
（F410K, F510K）

エンジン回転調整レバー
ハンドル固定レバー
エア　クリーナ
（空気清浄器）
チョーク　レバー
エンジン　スイッチ
燃料コック
レバー
ハンドル高さ調整レバー
泥水カバー
変速機オイル給油キャップ
ヒッチ　ボックス
（作業機取り付け部）
始動グリップ
左側
前方
後方
右側
PTO軸（動力取り出し軸）カバー
フレーム号機表示位置

（F410L, F510L, LB, LA）

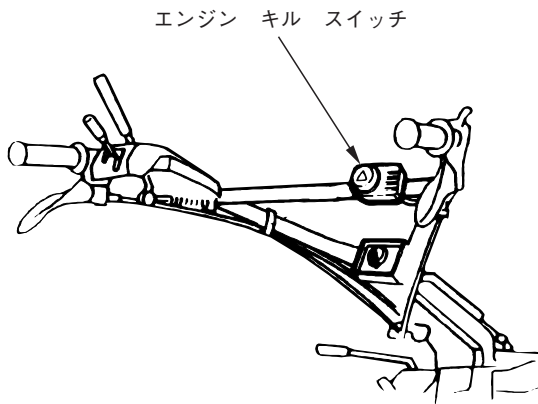
※F510-LAタイプは車輪（ホイール）無し

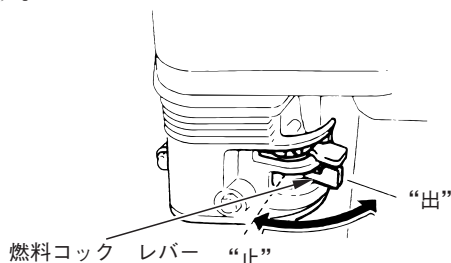
（F410L, F510L, LB, LA）

※F510-LAタイプは車輪（ホイール）無し

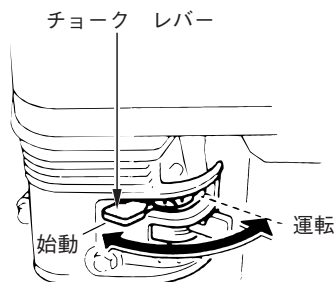
エンジン　スイッチ

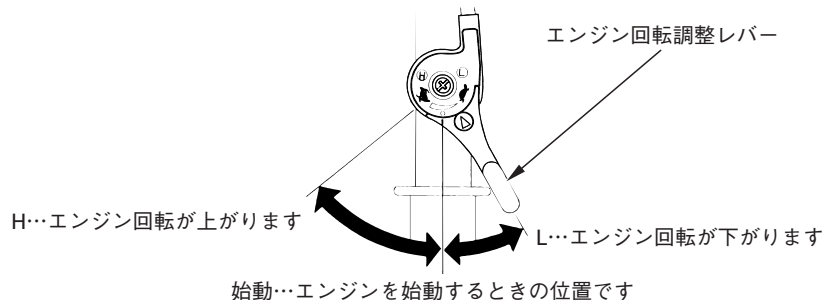
エンジン　スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。

エンジン　キル　スイッチ

（L, LB, LAタイプ）

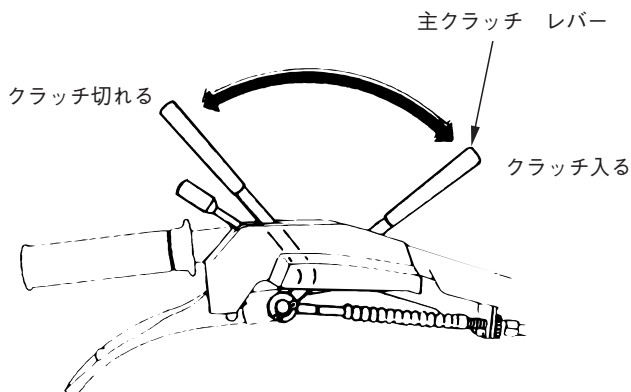
運転中、緊急にエンジンを停止したい場合に使用します。
エンジン　キル　スイッチは押すだけでエンジンが停止できます。

燃料コック　レバー

燃料コック　レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。

チョーク　レバー

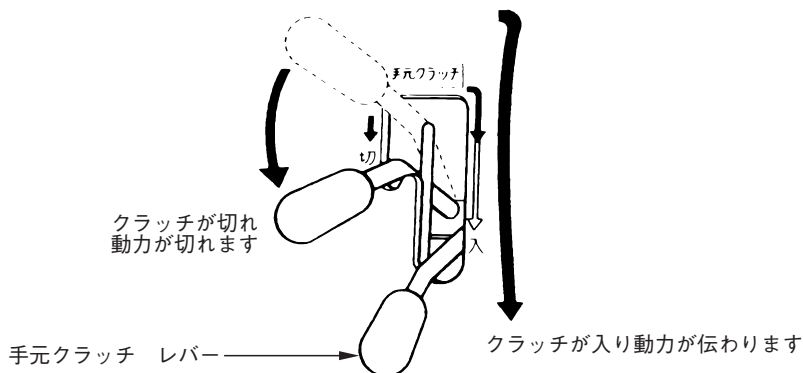
エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。

エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。

主クラッチ　レバー

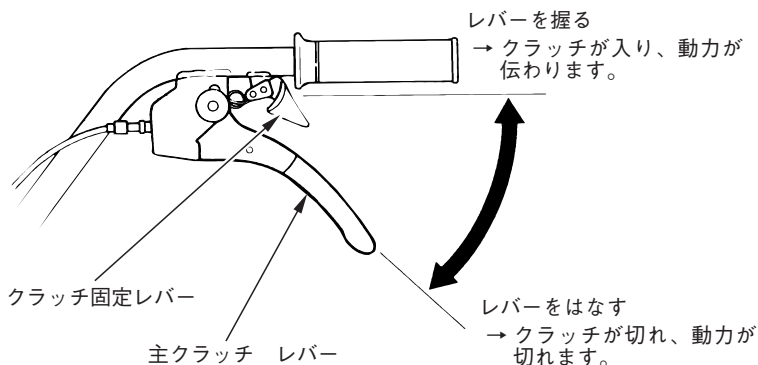
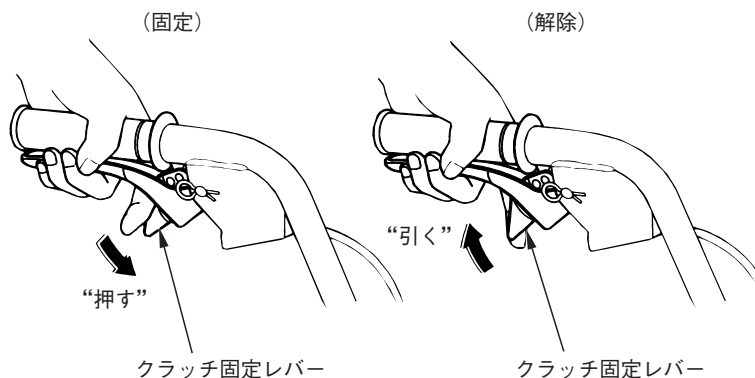
（L, LB, LAタイプ）

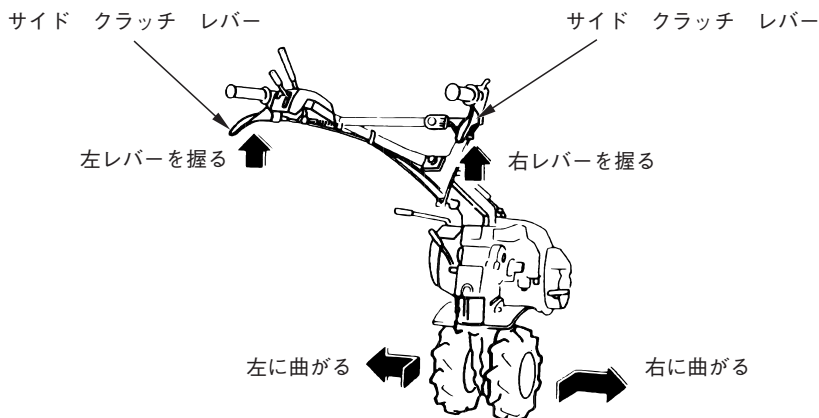
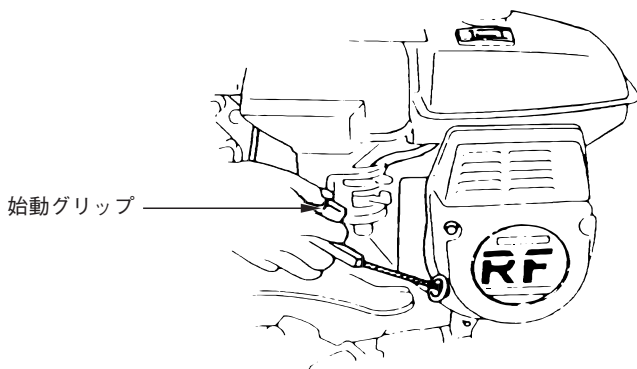
主クラッチは、車輪および動力取出軸への動力を断接する装置です。
主クラッチ　レバーを手前に引くと動力が切れ、前方に倒すと動力が伝わります。

手元クラッチ　レバー

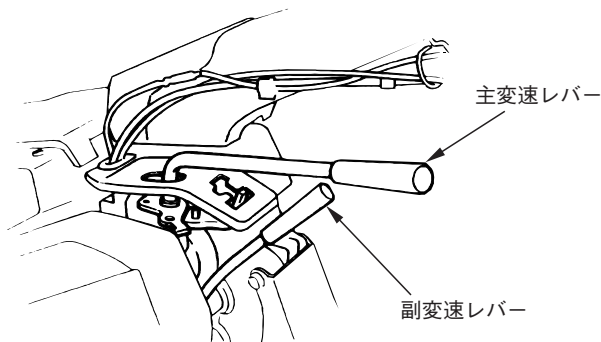
（L, LB, LAタイプ）

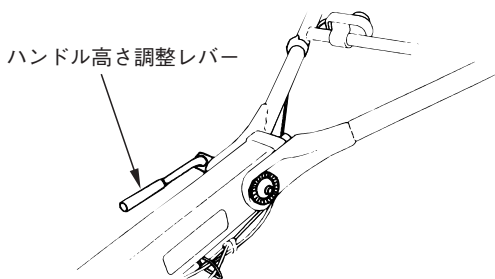
手元クラッチは手元で動力を伝えたり、切ったりするときに操作します。

主クラッチ　レバー、クラッチ固定レバー

（Kタイプ）

主クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。
クラッチ　レバーを握ると動力が伝わり、はなすと動力が切れます。

- クラッチ　レバーを握って固定レバーを指で押すとクラッチ　レバーは固定されます。
- 解除するときは、固定レバーを手前に引き、クラッチ　レバーをはなします。

サイド　クラッチ　レバー
(L, LB, LAタイプ)

方向を変えるときに使います。
レバーを握ると握った方向に曲ります。
右レバーを握る…右に曲ります。
左レバーを握る…左に曲ります。

始動グリップ
エンジンを始動するときに操作します。

変速レバー

進行方向や本機の速度を変えるときに操作します。
変速は前進３段、後進１段ですが、副変速レバーを“低”“高”に切りかえることによって前進６段、後進２段となります。

ハンドル高さ調整レバー

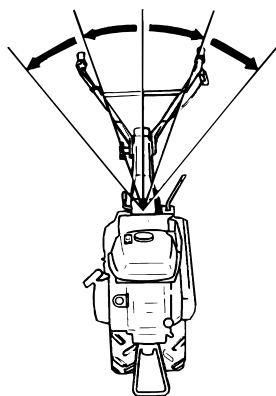
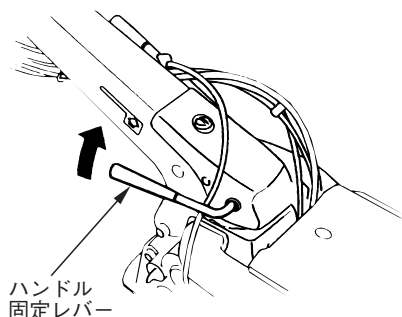
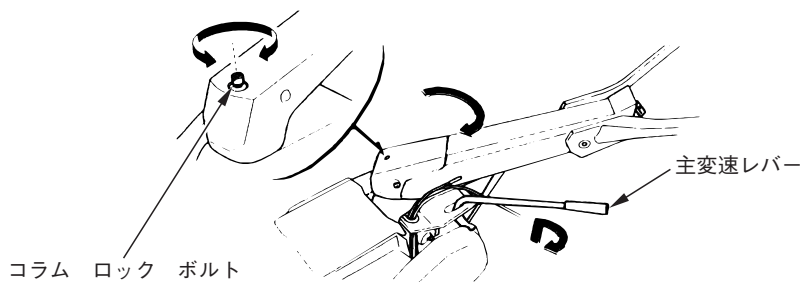
ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。
高さは任意に変えられます。
《調整のしかた》
調整レバーを回してゆるめ、ハンドルを任意の高さに合わせてレバーを固定します。

取扱いのポイント

調整後はレバーを十分に締付けてください。

ハンドル固定レバー

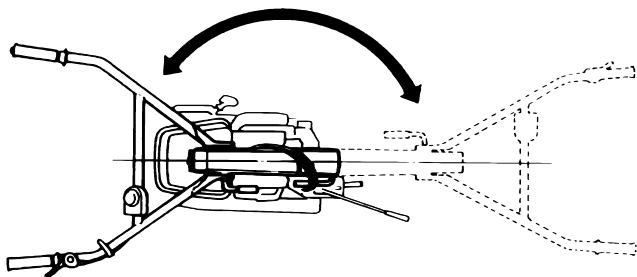
ハンドルの角度調整、反転時に操作します。

《角度調整のしかた》

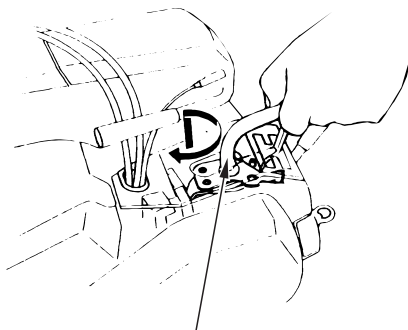
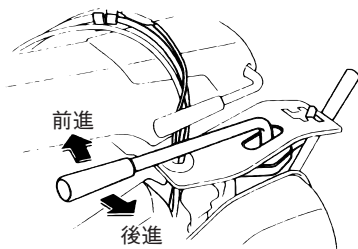
ハンドル固定レバーを軽く引き上げて行います。
角度は左右それぞれ２段階に選ぶことができます。

ハンドルを左に角度調整したときは、主変速レバーも左へ角度を変えてください。主変速レバーを引き上げ、時計方向に回して固定します。

取扱いのポイント

反転を頻繁に行わない場合、またはスキ耕などの重負荷作業時には、コラム　ロック　ボルトはいっぱいに締め込んだ状態でご使用ください。

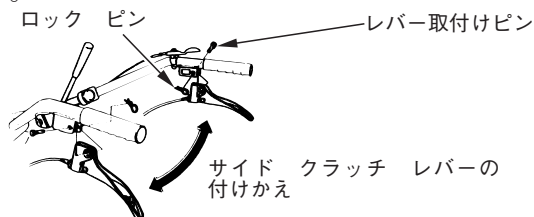
《反転のしかた》

1. ハンドル固定レバーを軽く引き上げ、ワイヤ類がひっかからないように注意しながらハンドルを反時計方向に回します。
2. 機体の中心にハンドルを合わせ、固定レバーが所定の位置で固定されたことを確認します。

⚠注意

ハンドルの反転は、必ずエンジンを停止して行ってください。

3. 主変速レバーを持ち上げて時計方向にまわします。
(副変速レバーの向きは変わりません。)

4. ハンドル反転後、各レバー、ピン類の取付けが完全であるか確認します。
ハンドルを反転すると主変速レバーでの変速は前進、後進のみとなります。

取扱いのポイント

２速、３速はチェンジができない構造となっているので、無理に操作しないでください。

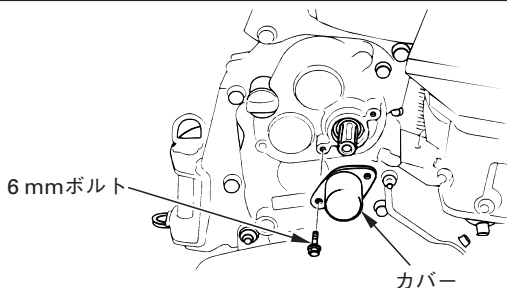
5. ハンドルを反転するとサイド　クラッチ　レバーが左右反対になります。
(L, LB, LAタイプ)
ロック　ピンとレバー取付けピンを外し、左右のサイド　クラッチ　レバーを付けかえます。

⚠注意

- ハンドル反転時、サイド　クラッチ　レバーを左右付けかえてあるかどうか必ず確認してください。(L, LB, LAタイプ)
付けかえないと旋回方向が反対になり危険です。
- ハンドルを元に戻したときには、必ずサイド　クラッチ　レバー、変速レバーを元に戻してください。

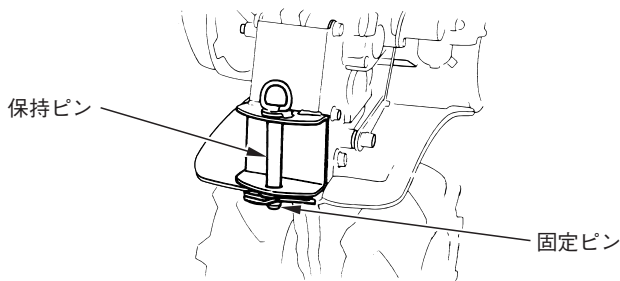
PTO軸（動力取出し軸）

PTO軸は定置作業、動噴、草刈、中耕ロータリ等に使います。
動力の取出しは 6 mm ボルト 2 本を外し、 PTO軸カバーを取外して行います。

⚠警告

PTO軸（動力取出し軸）カバーはPTO軸を使わないとき常に取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたりし、ケガをするおそれがあります。

副変速レバーを操作することにより 2 通りの回転速度が選べます。
　低速：867 rpm
　高速：1,739 rpm

ヒッチ　ボックス（作業機取付け部）

作業機を取付けるところです。
取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。

車輪取付けピン

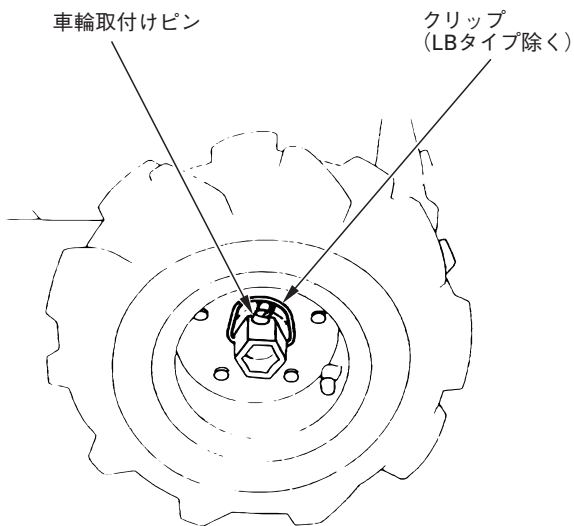
（F510-LAタイプを除く）

車輪の取付け、取外し、車輪幅の調整を行なうときに取扱います。

《調整のしかた》

クリップ、車輪取付けピンを外し、任意の穴へさしかえます。

⚠注意

車輪を取外すときは、２人で行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。

作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……………燃料の量(28頁参照)、オイルの量(30頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……………レバーの遊び量(58～60頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- タイヤの空気圧…………タイヤの空気圧は適正ですか。(32頁参照)
  (F510-LAタイプを除く)
- 各部の締付け……………ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類………被覆の破れ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は34～37頁参照)
  ・エンジン　スイッチで確実に停止しますか。
  (停止手順は48～50頁参照)
  ・エンジン　キル　スイッチで確実に停止しますか。(L, LB, LAタイプ)
  (停止手順は47頁参照)

- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

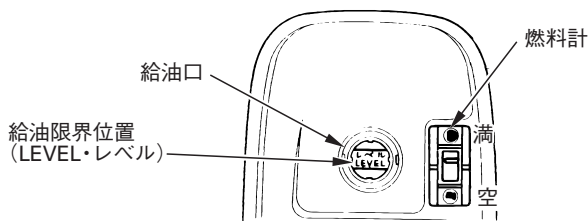
ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。
  燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を水平にし燃料計で燃料の量を点検します。
少ない場合は補給してください。
スタンドを立てた状態では本機が前傾し正確な量が計れません。燃料計の点検をするときは必ず本機を水平状態にしてください。

補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

タンク容量：3.0ℓ

●燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。

●燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

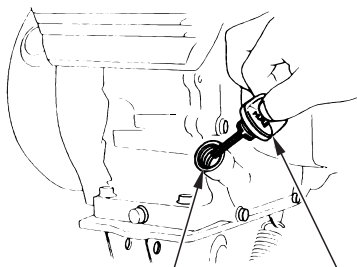
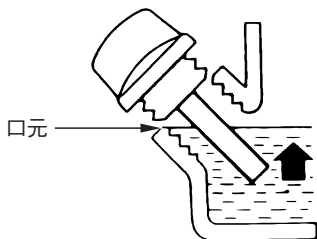
●給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン　オイルの点検

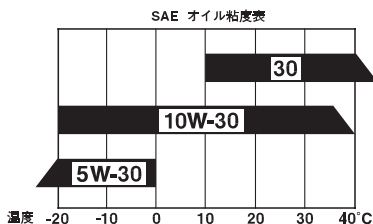
点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

補給

少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。

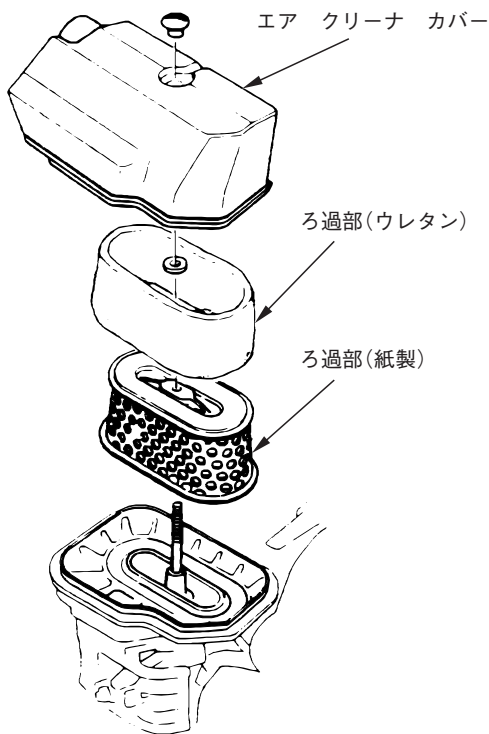
汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 52、53 頁参照）補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。

推奨オイル：（4 サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイル量：0.6 ℓ

取扱いのポイント

- 低温時（気温10°C以下）では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

エア　クリーナ　カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は55頁参照)

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

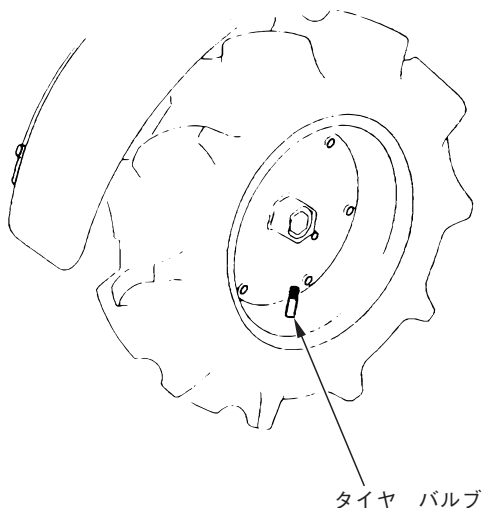
タイヤ空気圧の点検
（F510-LAタイプを除く）

点検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低過ぎるとタイヤの寿命を短かくします。
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

調整

バルブ　キャップを取外し、タイヤ　バルブより空気を注入、または抜いて調整します。

タイヤ　サイズ：3.05－5（K, Lタイプ）
　　　　　　　　4.00－7（LBタイプ）
標準空気圧：118 kPa (1.2 kgf/cm²)

泥水カバーの点検･清掃

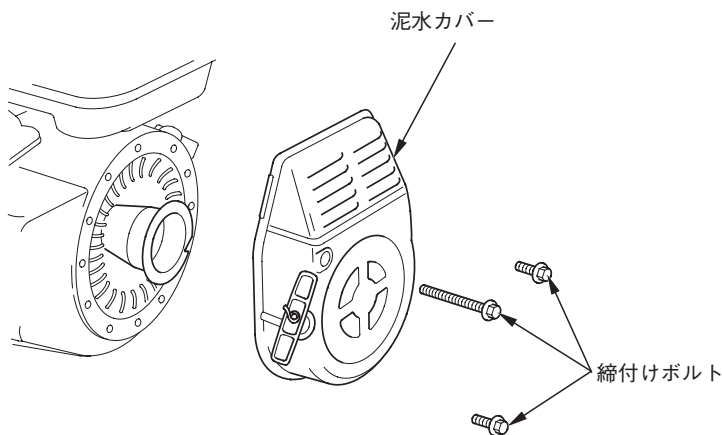
点検

泥水カバー上部より目視にて点検します。草や土が入っていたり、泥水が入った場合は清掃してください。

清掃

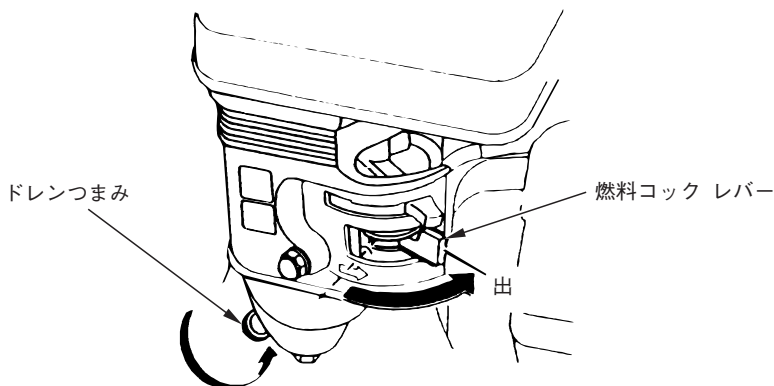
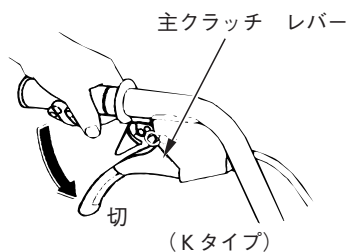
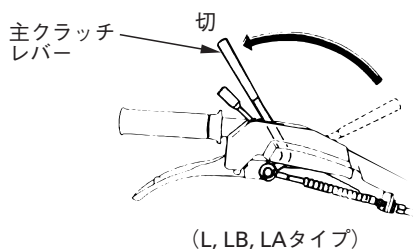
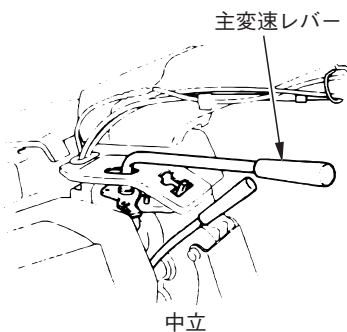
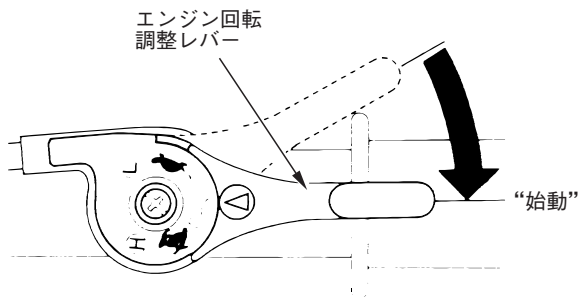
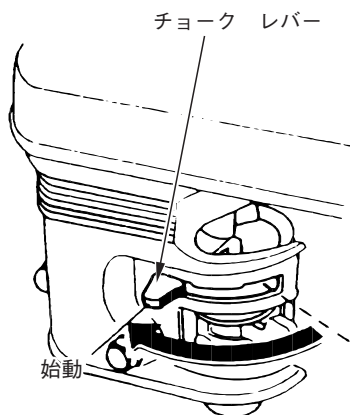
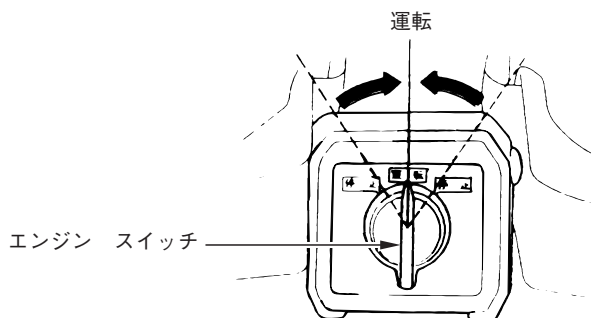
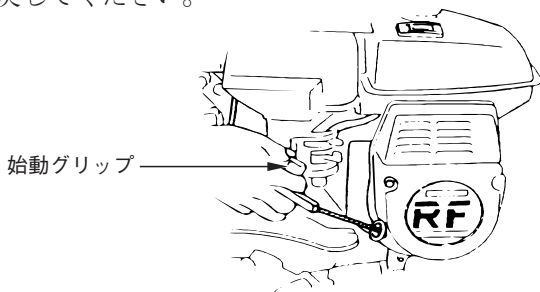
泥水カバー内に草や土が入っていると冷却風の不足やオーバー　ヒートの原因となる場合がありますので必ず清掃を行ってください。

《清掃のしかた》

1．締付けボルト(３ケ)を外し泥水カバーを取外します。
2．カバー内の草や泥を取除きます。
3．清掃後、元の位置にセットし、締付けボルトを確実に締付けてください。

エンジンのかけかた

⚠警告

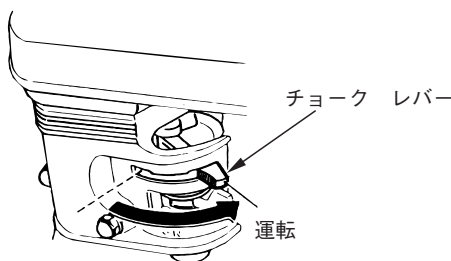
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチ　レバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

1. 燃料コック　レバーを“出”にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。

2. 主クラッチ　レバーが“切”になっていることを確認します。

3. 主変速レバーが“中立”になっていることを確認します。

4. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。

5. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョーク　レバーを**“始動”**の位置にします。

6. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にします。

7. ハンドル　コラムを左手でおさえ、右手で始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。始動グリップは手を添えて静かに戻してください。

⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動します。
9. ２～３分間暖機運転を行います。チョーク　レバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。

運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

主変速レバー、副変速レバー

変速表の適応作業を目安に作業の状況に合せ適切な変速位置を選びます。(39、40頁参照)速度が速すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

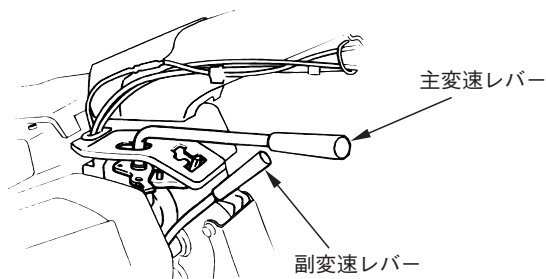
変速の要領

1) 主変速、副変速レバーは、必ず主クラッチを切ってから操作します。
2) 主変速レバーが作動しにくいときにはいったんクラッチを入れた後クラッチを切りもう一度操作します。
3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転してください。

⚠警告

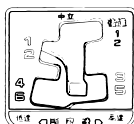
後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

・後方に人や障害物がないことを確認してください。
・エンジン回転を下げてください。
・ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
・クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。

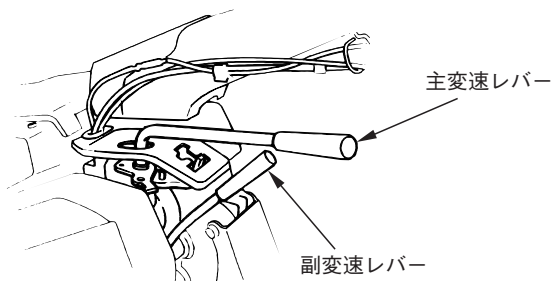
変速表

F410

副変速位置	主変速位置	車軸回転数(rpm)	適　応　作　業
低　速	1	15.9	ロータリ
	2	25.2	ロータリ、堀取り
	4	45.0	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	後進 1	15.5	ロータリ
高　速	3	31.8	培土、カルチ、けん引マルチ
	5	50.6	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	6	90.6	ロータ、代かき
	後進 2	31.0	モアー、ロータリ

エンジン回転数3,600 rpm時

F510-K, L, LB

副変速位置	主変速位置	車軸回転数(rpm)	適　応　作　業
低　速	1	12.1	ロータリ
	3	32.5	ロータリ、堀取り
	4	45.0	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	後進 1	12.6	ロータリ
高　速	2	24.2	培土、カルチ、けん引マルチ
	5	65.1	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	6	90.3	ロータ、代かき
	後進 2	25.3	モアー、ロータリ

エンジン回転数3,600 rpm時

変速表

F510-LA

副変速位置	主変速位置	車軸回転数(rpm)	適　応　作　業
低　速	1	16.2	ロータリ
	3	32.4	ロータリ、堀取り
	4	60.7	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	後進1	15.8	ロータリ
高　速	2	39.6	培土、カルチ、けん引マルチ
	5	79.4	培土、カルチ、けん引(消毒機等)
	6	121.9	ロータ、代かき、除草
	後進2	31.6	モアー、ロータリ

エンジン回転数3,600 rpm時

運転

⚠注意

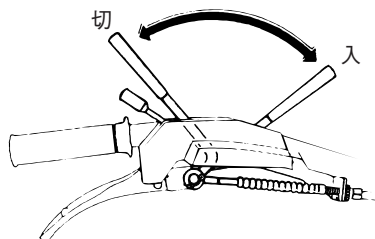
本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

主クラッチ　レバー(L, LB, LAタイプ)

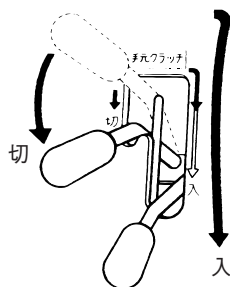
主クラッチ　レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

主クラッチの機能

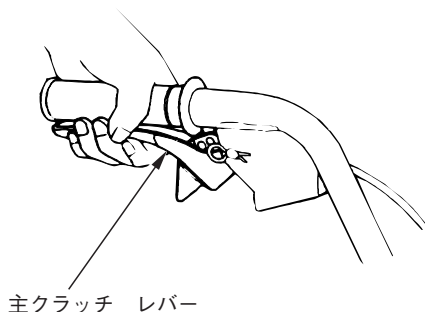
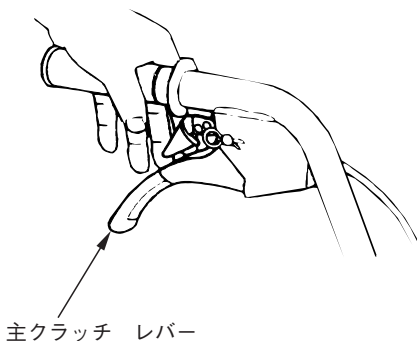
レバーを引く…クラッチ**“切”**…動力が切れます。

レバーを前方に倒す…クラッチ**“入”**…動力が伝わります。

手元クラッチ　レバー(L, LB, LAタイプ)

レバーを切側に押し下げる…クラッチ**“切”**…動力が切れます。

レバーを入側に押し下げる…クラッチ**“入”**…動力が伝わります。

主クラッチ　レバー（Kタイプ）

主クラッチ　レバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

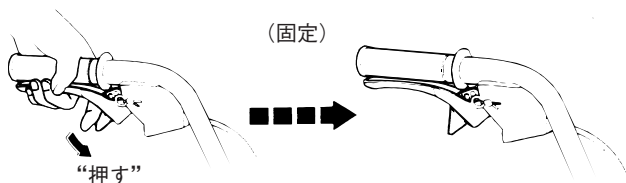
主クラッチ　レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。

主クラッチ　レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。

取扱いのポイント

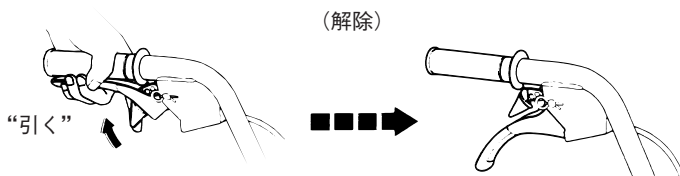
主クラッチ　レバーの操作は、静か（スムーズ）に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

クラッチ固定レバー（Kタイプ）

固定レバーを操作することにより、主クラッチ　レバーは握ったままの状態が保持できます。固定レバーを使用する場合は十分クラッチ操作に慣れてから、また広い耕地及び身辺に障害物のない場所で使用してください。

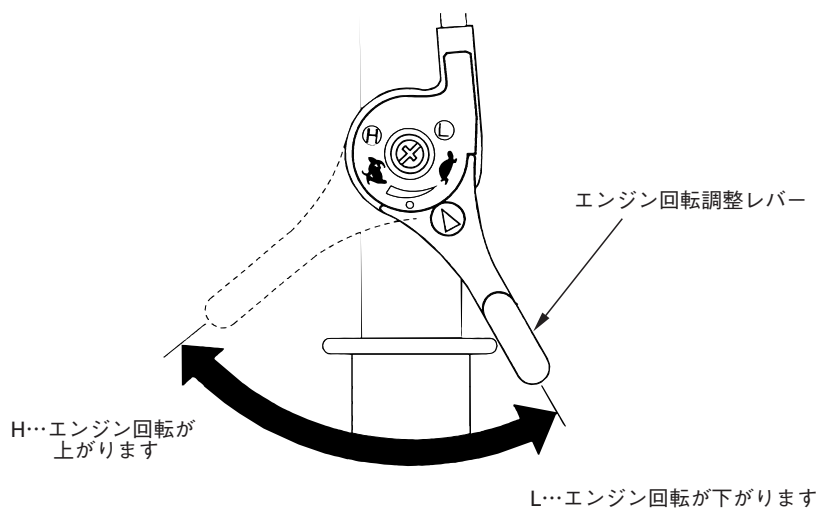
主クラッチ　レバーの固定のしかた

主クラッチ　レバーを握ってクラッチ固定レバーを人差し指で押すと主クラッチ　レバーは固定されます。

主クラッチ　レバーの固定解除のしかた

解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、主クラッチ　レバーを放します。

⚠注意

- 固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
  ハウスや障害物に衝突し思わぬ事故の原因となります。
- 固定レバーを使用し作業を行うときは、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

エンジン回転調整レバー

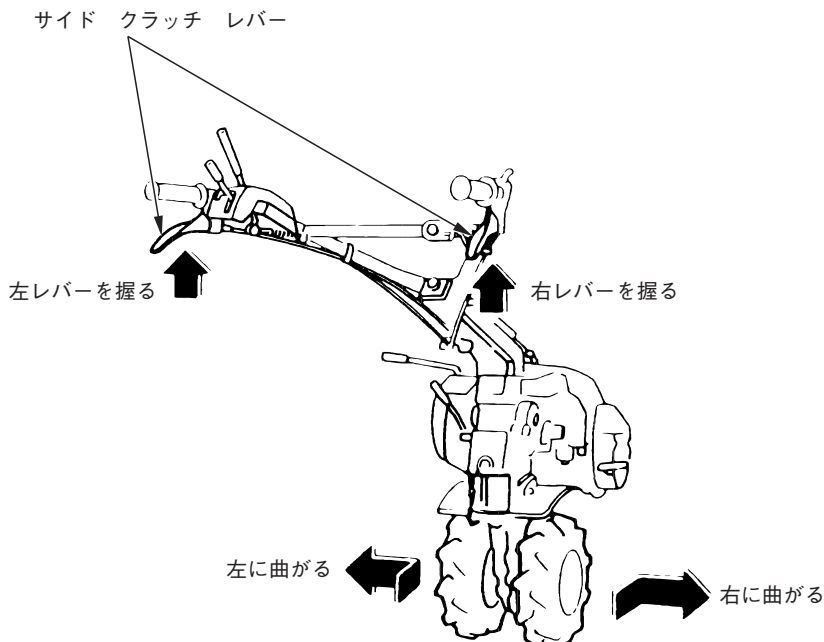
エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。

旋回

サイド　クラッチ　レバー（L, LB, LAタイプ）

⚠警告

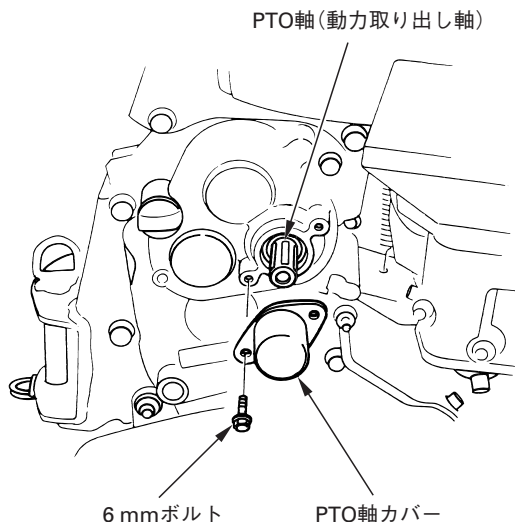
- 高速運転時、サイド　クラッチ　レバーを操作しないでください。
  高速時操作すると、本機が急旋回し走行が不安定となり、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 登り坂、下り坂ではサイド　クラッチ　レバーを操作しないでください。
  登り坂、下り坂でサイド　クラッチ　レバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したりし、事故、けが、本機の故障をまねくおそれがあります。

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。

右のレバーを握る…右に曲がります。
左のレバーを握る…左に曲がります。

動力取出し

PTO軸（動力取出し軸）の使いかた

動力は、ミッション　ケース右側のPTO軸より取出します。

1. ボルト２本を外し、PTO軸カバーを取外します。
2. プーリを取付け、ボルトで締付けます。

⚠警告

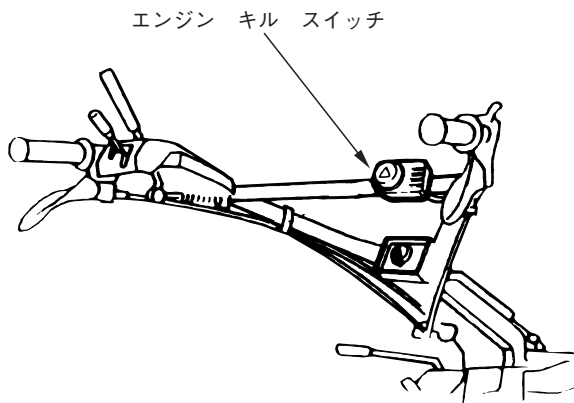
- PTO軸カバーは、PTO軸を使わないときは常に取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたりし、ケガをするおそれがあります。
- 本機のスタンドを立て、傾かないようしっかりと固定してください。
- 変速レバーを中立にしてください。中立にしないと本機が動き出し、ケガをするおそれがあります。

エンジンのとめかた

緊急停止の場合

（L, LB, LAタイプ）

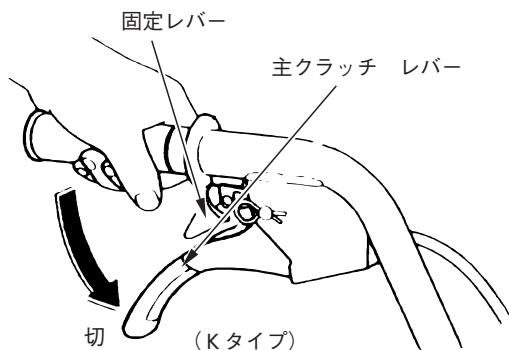
エンジン　キル　スイッチを押すとエンジンが停止します。

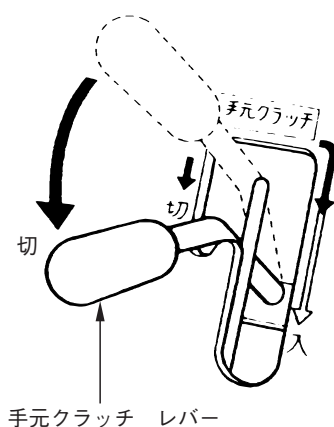
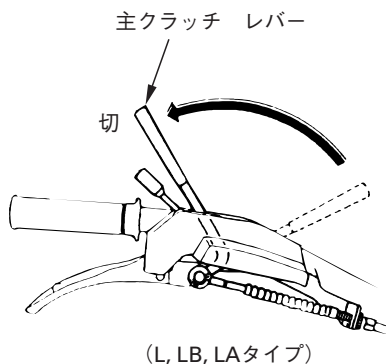
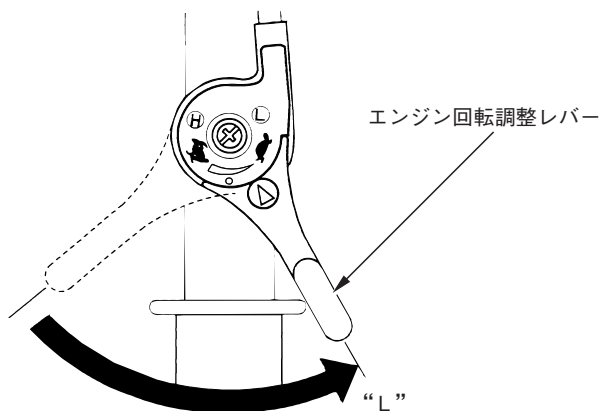
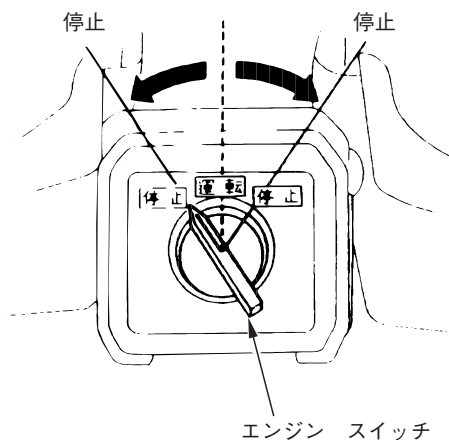
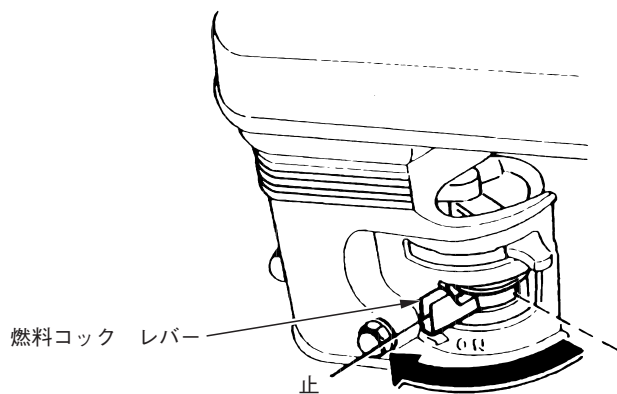
エンジン　キル　スイッチを使用して緊急停止をした場合は、エンジン　スイッチを**“停止”**にし、主クラッチ　レバーを切り、エンジン回転調整レバーを“Ｌ”の位置に戻して、変速レバーを**“中立”**にしてください。

取扱いのポイント

通常のエンジン停止、保管点検時は、エンジン　スイッチを“停止”にしてエンジンを止めてください。エンジン　キル　スイッチは緊急停止の場合に使用してください。

通常停止の方法

1. 主クラッチ　レバーを“切”にします。
（K タイプ）
主クラッチ　レバーが固定されている場合はクラッチ固定レバーを引いてから主クラッチ　レバーをはなして“切”にします。

（K タイプ）

（L, LB, LAタイプ）
主クラッチ　レバー、手元クラッチ　レバーを“切”にします。

（L, LB, LAタイプ）

2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。

3. エンジン　スイッチを“停止”に合わせます。

4. 燃料コック　レバーを“止”に合わせます。

定期手入れを行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期（２）		稼働期前	作業前点検	初回20時間運転目	50時間運転毎	100時間運転毎	１年に１回または300時間運転毎
エンジンオイル〈注１〉	点検		○				
	交換	○		○		○	
本機の周り	点検		○				
泥水カバー	点検－清掃		○				
各部の締付け	点検		○				
配線、ケーブル類	点検		○				
タイヤ空気圧	点検		○				
エンジンの作動	点検		○				
レバー類の作動	点検		○				
変速機オイル〈注１〉	点検	○					
エア　クリーナ	点検		○				
	清掃				○（１）		
	交換						○
点火プラグ	点検－調整					○	
	交換						○
燃料ろ過カップ	清掃					○	
アイドル回転	点検－調整						○（３）
エンジン回転調整ケーブル	調整						○
吸入、排気弁すき間	点検－調整						○（３）
燃焼室	清掃	500時間運転毎（３）（４）					
サイドクラッチケーブル	調整			○		○	
副変速ケーブル	調整			○		○	
主クラッチケーブル	調整			○		○	
駆動ベルト	調整			○		○	
燃料タンク及びフィルタ	清掃	○				○（３）	
燃料チューブ	点検	２年毎（必要なら交換）（３）					

〈注１〉エンジン　オイル…稼働期前にも必ず交換してください。
　　　変速機オイル………汚れを確認し汚れがひどい場合に交換してください。

（１）ホコリの多い所で使用した場合は、エア　クリーナの清掃は10時間毎または１日１回行ってください。
（２）点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（３）販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
（４）表示時間を経過後すみやかに実施してください。
・バッテリ付仕様は長時間使用しない場合、または作業を終わり長期格納する場合は、保管中６ケ月に一度指定充電器で補充電を行ってください。

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》　初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎。また、稼働期前には必ず交換してください。

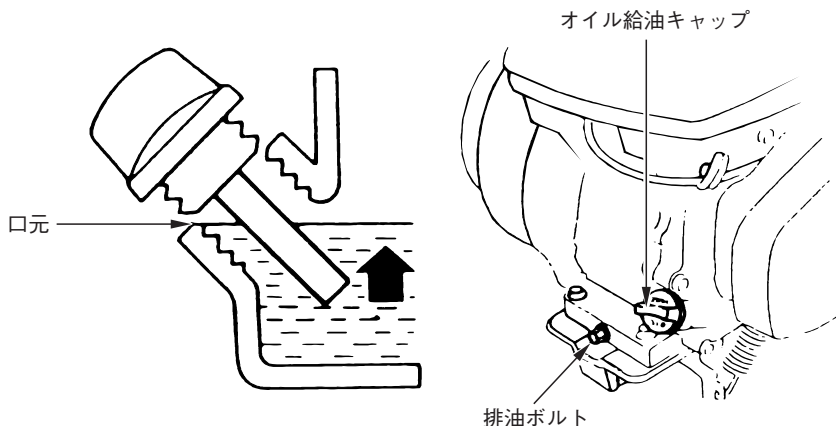
《推奨オイル》　（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《エンジン　オイル量》　0.6 ℓ

取扱いのポイント

- 低温時（気温10°C以下）では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリング　ワッシャを使用し、確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

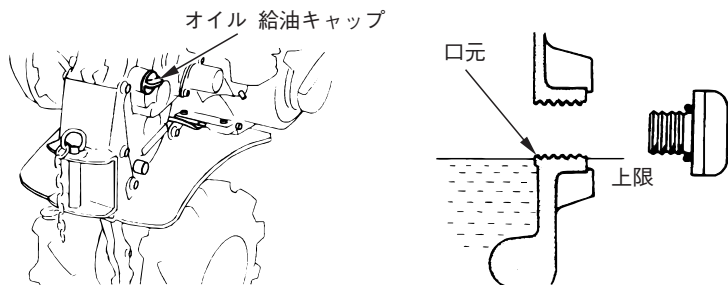
取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

変速機オイルの点検

《点検時期》　稼働期前

点検

- エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。
- 汚れを確認し、汚れがひどい場合は交換してください。
  交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。

補給

《推奨オイル》　Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

変速機オイル量：2.2 ℓ

オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
補給後、キャップは確実に締付けてください。

取扱いのポイント

- 低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア　クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足や、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

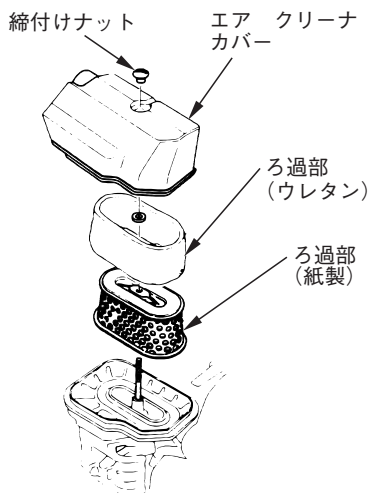
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は、10時間運転毎または１日１回行ってください。

《交換時期》　１年に１回または300時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 締付けナットを外し、図のようにエア　クリーナ　カバーを外し、ろ過部を取外します。
2. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。
3. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. ろ過部、エア　クリーナ　カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

- エア　クリーナ　カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア　クリーナ　カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検・調整時期》100時間運転毎

《交換時期》　1年に1回または300時間運転毎

《清掃のしかた》

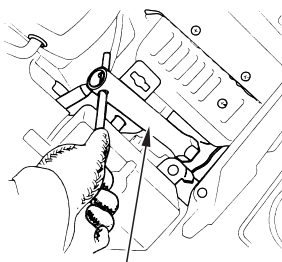
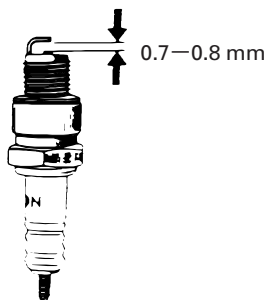
1. エンジンを停止し、点火プラグ　キャップを取外します。
2. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。

《調整のしかた》

側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：　0.7−0.8 mm

《標準プラグ》

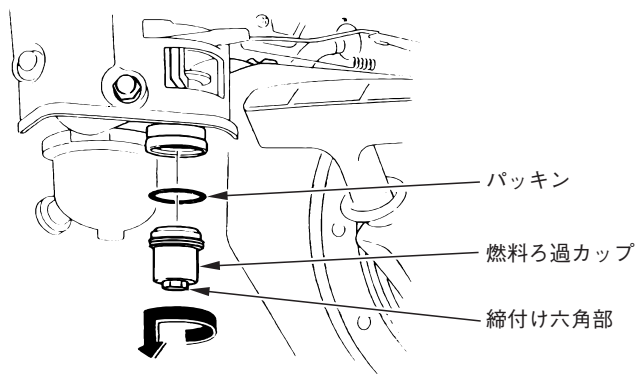
BP5ES (NGK)、W16EP-U (DENSO)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

燃料ろ過カップの清掃

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないか点検してください。
・ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

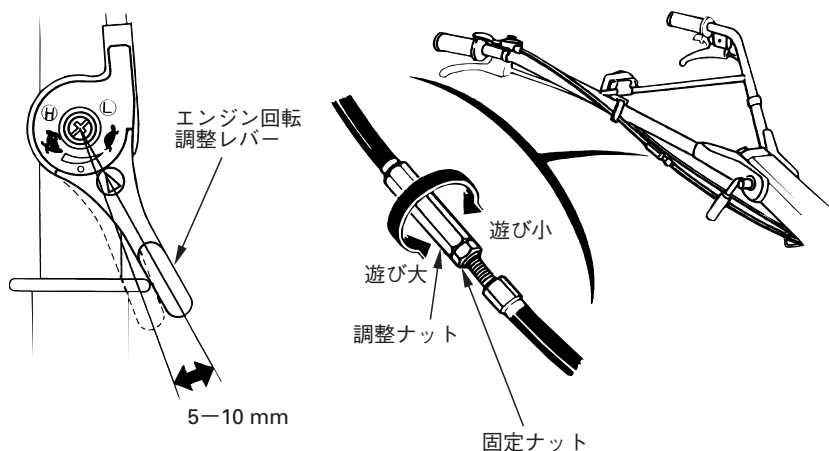
燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。
《清掃時期》100時間運転毎
《清掃のしかた》
1. 燃料コック　レバーを“**止**”にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 清掃後、パッキンを元どおりに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
4. 燃料コック　レバーを“**出**”の位置にし燃料の漏れのないことを確認します。

エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》

１年に１回または300時間運転毎

《調整のしかた》

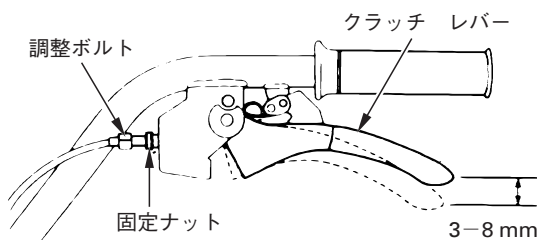
1. エンジン回転調整レバーを“Ｌ”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：5－10 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ、調整ナットを回して行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

主クラッチ　ケーブルの調整

主クラッチ　ケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったり駆動ベルトがすべったりします。

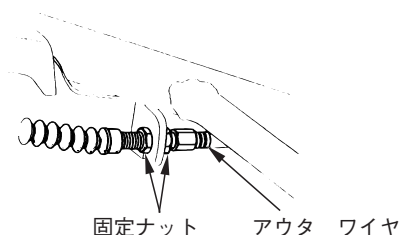
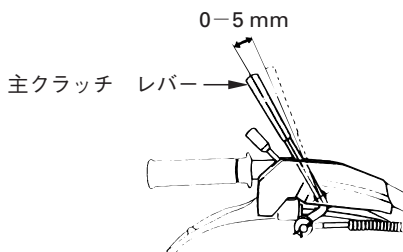
《調整時期》　初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

《調整のしかた》

（K タイプ）

1. 主クラッチ　レバーを**“切”**の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   調整は、固定ナットをゆるめ、調整ボルトで行います。
   遊び：3－8 mm

2. 調整後は固定ナットを確実に締付けてください。また、主クラッチ　レバーを数回**“入”** **“切”**し、再度遊びを確認してください。

（L, LB, LAタイプ）

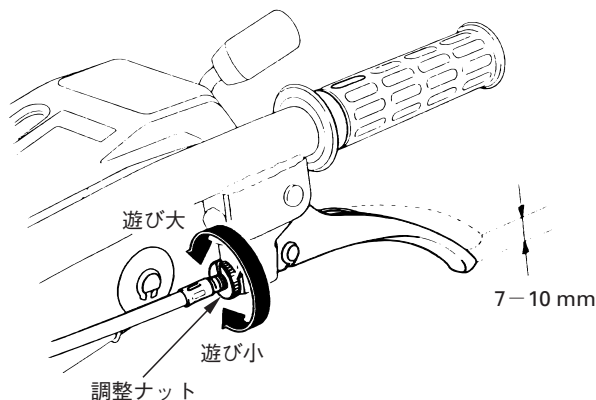
1. 主クラッチ　レバーを**“切”**の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：0－5 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめアウタ　ワイヤを前後に移動させて行います。
3. 調整後は固定ナットを確実に締付けてください。また、主クラッチ　レバーを数回**“入”** **“切”**し、再度遊びを確認してください。

サイド　クラッチ　ケーブルの調整（L, LB, LAタイプ）

サイド　クラッチ　ケーブルの調整が完全でないとサイド　クラッチの切れが悪くなります。

《調整時期》

初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

《調整のしかた》

1. サイド　クラッチ　レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。左右とも同じ要領で調整してください。
   遊び：7－10 mm
2. 調整は、調整ナットを回して行います。

駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

⚠注意

調整後は、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落して思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

《調整時期》

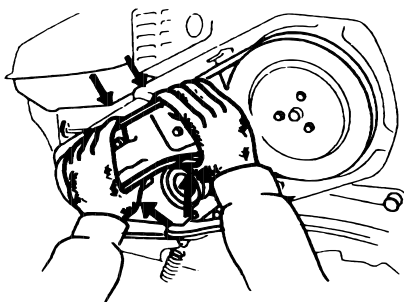
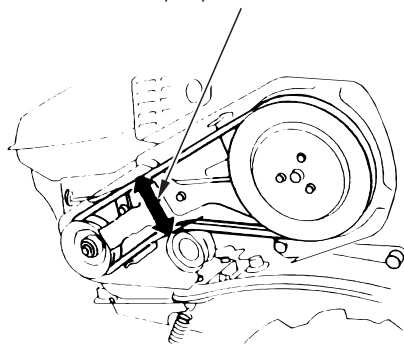
初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

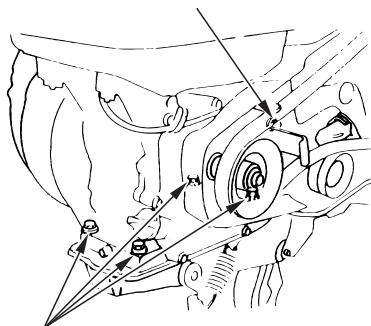
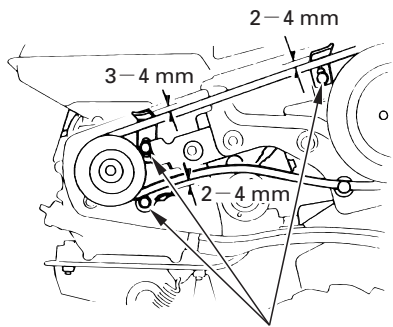
《点検のしかた》

1. ベルト　カバーを取外します。
2. ベルトのすき間及びストッパーのすき間の調整はエンジンを“停止”させ点火プラグ　キャップを外し、主クラッチ　レバーを“入”にした状態で下図のように上下ベルトを両手で５～６回つまんでベルトとプーリをなじませてから規定の寸法になるか、点検します。

ベルト間隔：Kタイプ：65－70 mm
　　　　　　L, LB, LAタイプ：60－65 mm

指定ベルト：レッドS-Ⅱ SB-40

3. 規定寸法外の場合は調整してください。

《調整のしかた》

4. 主クラッチ　ケーブルを調整します。(調整方法は59頁参照)
5. 調整はエンジン締付けボルトとステイ締付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。
   規定寸法よりせまい場合…エンジンを前に動かします。
   規定寸法よりひろい場合…エンジンを後に動かします。
6. 調整後、ボルト、ナットは確実に締付けてください。
7. 主クラッチを“入”にし、ストッパ締付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かしてストッパとベルトのすき間を下図の寸法に調整します。
8. ベルト　カバーを取付けます。

⚠注意

ベルト　カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると手や衣類を巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

取扱いのポイント

- 調整時エンジン側プーリの面と変速機側プーリの面が一直線になるように合わせてください。合っていないとベルト外れ及びベルトが早く傷みます。
- 指定されたベルトで正しい調整を行わないとベルトの傷みを早めたり、ベルトのすべりや外れ及び主クラッチの切れが悪くなる原因となります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

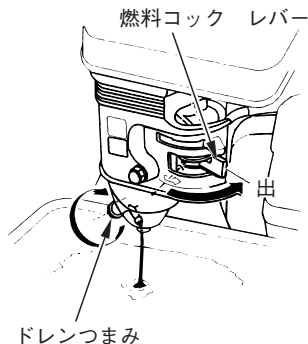
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。

1. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを下記の要領で抜きます。

《抜き方》

1) 燃料コック　レバーを**"出"**にします。
2) キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。
3) 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コック　レバーを**"止"**にします。

2. エア　クリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は55頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン　バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
4. クラッチ　レバーを**"切"**にします。

5. タイヤ空気圧を少し多くし〈137〜147 kPa（1.4〜1.5 kgf/cm²）程度〉、湿気、ホコリの少ないところにスタンドを立てて保管します。
（F510-LAタイプを除く）

取扱いのポイント

本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか? (34～37頁参照)
2. ガソリンはありますか? (28頁参照)
3. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか? (56頁参照)
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

主クラッチ、サイド　クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう

1. 主クラッチ　ケーブル、サイド　クラッチ　ケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか? (59、60頁参照)
2. 駆動ベルトの調整方法が取扱説明書通りですか? (61、62頁参照)

主要諸元

名　称		F410	F410L
型　式		ホンダF410	ホンダF410L
区　分		K	L
機体寸法	全　長(mm)	1,450	
	全　幅(mm)	595	
	全　高(mm)	955	1,055
	軸　距(mm)	182	
全装備重量(kg)		55	60
エンジン	名　称	GX120	
	形　式	空冷 4 サイクル 1 気筒25°傾斜型ガソリン	
	総排気量(cm³)	118	
	定格出力／回転速度	2.1 kW (2.8 PS)/3,600 rpm	
	最大出力／回転速度	2.8 kW (3.8 PS)/4,000 rpm	
	使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量(ℓ)	3.0	
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火	
	始動方式	リコイル　スタータ式	
タイヤ		3.05－5	
主クラッチ方式		ベルト　テンション	
変速段数	前　進	6 段(副変速機使用)	
	後　進	2 段(副変速機使用)	
PTO回転速度(rpm)		低速：867 、高速： 1,739	
操向クラッチ方式		――――	ボール式
安全鑑定適合番号		802012	802013

諸元は予告なく変更することがあります。

名称		F510	F510L	F510H	F510B
型式		ホンダ F510	ホンダ F510L	ホンダ F510H	ホンダ F510B
区分		K	L	LA	LB
機体寸法	全長(mm)	1,450			1,480
	全幅(mm)	595			
	全高(mm)	955	1,055	1,055*	1,105
	軸距(mm)	182		――	335
全装備重量(kg)		55	60	55	65
エンジン	名称	GX160			
	形式	空冷4サイクル1気筒25°傾斜型ガソリン			
	総排気量(cm^3)	163			
	定格出力／回転速度	2.9 kW (4.0 PS)/3,600 rpm			
	最大出力／回転速度	4.0 kW (5.5 PS)/4,000 rpm			
	使用燃料	自動車用無鉛レギュラーガソリン			
	燃料タンク容量(ℓ)	3.0			
	点火方式	トランジスタ　マグネト点火			
	始動方式	リコイル　スタータ式			
タイヤ		3.05－5		――	4.00－7
主クラッチ方式		ベルト　テンション			
変速段数	前進	6段(副変速機使用)			
	後進	2段(副変速機使用)			
PTO回転速度(rpm)		低速：867、高速：1,739			
操向クラッチ方式		――	ボール式		
安全鑑定適合番号		802014	802015	21002	802018

＊LAタイプ全高はø304ホイール装着時

諸元は予告なく変更することがあります。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ·ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へ
お申しつけください。